

二次電池用湿式セパレーター

年産能力80%増1億8000万²m

ダブル・スコープ

ダブル・スコープは2013年末までにリチウムイオン二次電池用湿式セパレーターの生産能力を従来比約80%増の年間1億8000万平方²m以上に引き上げる。このほど主要生産拠点である韓国子会社のダブル・スコープ 코리아で第3ラインが稼働したほか、13年に第4、5ラインを順次立ち上げる。売上高の7割を占めている中国市場で拡大するリチウムイオン電池の需要を取り込む。

投資額の抑制とともに他社との技術の差別化を図るため、第3ラインはセパレーターの素材であるポリオレフィン微多孔膜フィルム（ポリオレフィン微多孔膜フィルム）の製造工程の一

部を自社設計に切り替えた。生産・開発拠点となる韓国のダブル・スコープ 코리아は、忠清北道清原郡のオーチャン科学産業

団地の外国人投資地域に立地する。15年12月までに法人税の全額または一部免除が受けられる優遇措置を生かしてセパレーター供給体制の整備を急

ぐ。ダブル・スコープの11年12月期売上高は34億円。セパレーターを韓国系や中国系、米国系の企業に供給する。これまで日系企業の受注実績はほとんどなかったが、中国で日系企業によるリチウムイオン電池生産が始まったことを受け、春から本格的に日系企業向けの営業を始めた。